



**【副総裁】
内田眞一**

[うちだ・しんいち]
昭和 37 年 8 月 22 日生
出身地 東京都

- 昭和 61. 3 東京大学法学部卒業
- 61. 4 日本銀行入行
- 平成 19. 5 企画局参事役
- 20. 7 総務人事局参事役
- 22. 7 新潟支店長
- 24. 5 企画局長
- 29. 3 名古屋支店長
- 30. 4 日本銀行理事
- 令和 4. 4 日本銀行理事（再任）
- 5. 3 日本銀行副総裁



**【副総裁】
水見野良三**

[みみの・りょうぞう]
昭和 35 年 4 月 25 日生
出身地 富山県

- 昭和 58. 3 東京大学法学部卒業
- 58. 4 大蔵省入省
- 平成 15.10 バーセル銀行監督委員会事務局長
- 18. 7 金融庁監督局証券課長
- 19. 7 金融庁監督局銀行第一課長
- 21. 7 金融庁監督局総務課長
- 22. 7 金融庁総務企画局参事官
- 24. 7 金融庁総務企画局審議官
- 28. 7 金融庁金融国際審議官
- 令和 2. 7 金融庁長官
- 3. 9 東京大学公共政策大学院客員教授
- 4. 1 (株) ニッセイ基礎研究所総合政策研究部
エグゼクティブ・フェロー
- 5. 3 日本銀行副総裁



**【総裁】
植田和男**

[うえだ・かずお]
昭和 26 年 9 月 20 日生
出身地 静岡県

- 昭和 49. 3 東京大学理学部卒業
- 49. 4 東京大学経済学部入学
- 50. 4 東京大学経済学部大学院入学
- 51. 9 マサチューセッツ工科大学経済学部大学院入学
- 55. 5 マサチューセッツ工科大学経済学部大学院卒業
(55. 9 Ph.D. 取得)
- 55. 7 ブリティッシュ・コロンビア大学経済学部助
教授
- 57. 4 大阪大学経済学部助教授
- 平成 元. 4 東京大学経済学部助教授
- 5. 3 東京大学経済学部教授
- 10. 4 日本銀行政策委員会審議委員
- 12. 4 日本銀行政策委員会審議委員（再任）
- 17. 4 日本銀行政策委員会審議委員退任
- 17. 4 東京大学大学院経済学研究科教授
- 29. 4 共立女子大学教授
- 令和 5. 4 日本銀行総裁

日本銀行新総裁、新副総裁就任

▼日本銀行の総裁および副総裁が交替しましたので、新しい総裁および副総裁をご紹介します。



200 万人目にご来館された方々

**貨幣博物館
来館者数 200 万人達成**

▼日本銀行金融研究所貨幣博物館は、一九八五年十一月の開館以来の来館者数が、三月十四日に二〇〇万人を達成しました。これを記念して、二〇〇万人目にご来館された方々を囲んでセレモニーを執り行いました。

▼貨幣博物館は、一時は感染症の影響により臨時休館を余儀

なくされた時期もありましたが、このところ、学生のグループやご家族連れのご来館も増え、活気を取り戻しています。今後も、より魅力的な博物館を目指し、展示や各種情報発信の充実に努めてまいります。

▼皆さま方のご厚誼に心より感謝しつつ、より多くの方々のご来館をお待ちしております。

※開館日等の情報は

貨幣博物館

ホームページを

ご覧ください。



第三回情報セキュリティ・シンポジウムをオンライン開催

▼金融研究所情報技術研究センター（CITECS）は、二〇二三年三月三日、「オープン・ソース・ソフトウェア（OSS）のセキュリティ」をテーマとするシンポジウムを開催しました。参加者は、金融機関の関係者やシステム開発事業者な

どを中心に約一五〇名に上り、この問題への関心の高まりが伺われました。

▼OSSは、ソースコードが公開され、誰もが自由に利用や修正、再配布が可能なソフトウェアで、ソフトウェア開発において不可欠な社会インフラとなっています。今回のシンポジウムでは、こうしたOSSを金融業界において安全に活用していくことを展望し、OSSが想定している開発の世界観、脆弱性（ぜいじやく）対応の難点や対応策、金融業界における取り組み、機械学習に特有の新たなリスクといったテーマについて、三名の外部有識者に講演を行っていただきました。パネル・ディスカッションでは、金融機関におけるOSSコミュニティとの関わり方や、業界横断的な共助の考え方とその限界などについて議論が交わされました。

▼その模様や講演資料を日本銀行金



融研究所ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

国際コンファランスを開催

▼一九八三年以来、日本銀行は、金融研究所において国内外の著名な経済学者や中央銀行関係者を招いた国際コンファランスを開催しています。今年は、「Old and New Challenges for Monetary Policy」（金融政策の古典的な課題と新たな展望）をテーマとして、五月三十一日、六月一日に開催しました（四年ぶりの対面形式）。

▼植田和男総裁の開会挨拶、カリフォルニア大学バークレー校



開会挨拶を行う植田和男総裁（撮影：中島美沙）

のモーリス・オブストフェルド教授による前川講演（金融研究所発足時（一九八二年）の前川春雄総裁の名を冠したスピーチ）に続き、インフレ予想の形成メカニズムや政策議事録のテキスト解析に関する研究発表やパネル討議が行われ、金融政策の課題や展望について議論が展開されました。

「ISOパネル（第七回）：生体認証技術の金融サービスへの活用

—新しい国際標準 ISO19092の概要と

活用可能性—を開催（三月）

▼決済機構局では、三月六日に標記パネルディスカッションをオンラインで開催しました。

▼スマートフォンを活用したオンラインでの本人確認（eKYC）など、金融サービスにおいても生体認証技術の活用が進んでいきます。このため、国際標準化機構（ISO）は、技術の進展等を捉え、リテール決済

に焦点を当てた生体認証システムのモデルやそのセキュリティ要件に関する規格ISO 19092を刷新し、三月に公表しました。

▼当日は、まず、この新しい標準規格での仕様と、関連する生体認証に関するISO規格を簡単に解説しました。そして、ISO以外の生体認証に関する規格のうち、業界で広く認知されているFIDOの規格についても簡単に解説しました。その後、生体認証に携わる専門家の方々と、①生体認証技術の金融サービスへの活用事例、および、②今後の生体認証技術の金融サービスへの活用の展望と国際標準の活用についてパネルディスカッション形式で議論しました。

▼決済機構局は、金融サービス分野の国際標準化を検討する国際標準化機構（ISO）・金融サービス専門委員会（TC68）の国内委員会事務局を務めている

ます。金融サービス分野の標準化に関心のある方は、日本銀行ホームページに活動内容や取り組みを掲載しておりますので、ご覧ください。



「決済の未来フォーラム クロスボーダー送金分科会（第五回）」を開催（三月）

▼決済機構局では、三月十六日に標記会合を開催しました。

▼会合では、まずクロスボーダー送金の改善に向けたG20のロードマップの優先アクションが紹介されました。参加者からは、AML/CFT（注）の効率化・高度化に資する取り組みを支持する声が聞かれました。

▼次に、ISO20022の採用に関する取り組みとして、送金電文の仕様にかかる共通要件の策定に向けた国際的な動向が紹介されました。参加者からは、クロスボーダー送金のコストやスピードを改善するためには、

各国の送金実務等の透明性確保と併せて作業を進めるべきとの意見が聞かれました。

▼最後に、日本のAML/CFTの現状が紹介され、金融機関が求められる対応や立法措置および業界横断の取り組みに関して、幅広い意見が寄せられました。

（注）マネーロンダリングおよびテロ資金供与対策を指す。

中央銀行デジタル通貨に関する実証実験（パイロット実験）を開始

▼日本銀行は、二〇二二年四月より、中央銀行デジタル通貨（CBDC）に関する実証実験を進めています。このうち、CBDCの基本的な機能や具備すべき特性が技術的に可能か否かを検証するプロセスである「概念実証」は二〇二三年三月に終了し、同年四月より「パイロット実験」を開始しました。

▼「パイロット実験」では、中

央システムのみならず、仲介機関ネットワークや仲介機関システム、ネットワークの末端機器も含む実験用システムを構築し、業務フローの確認や外部システムとの接続に向けた課題・対応策の検討等を行います。

▼また、CBDCの設計を適切に進める観点から「CBDCフォーラム」を設置し、リテール決済に関わる民間事業者にご参加いただいた上で、幅広いテーマについて議論・検討を行ってまいります。

▼この間、「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会」では、実証実験の内容や進捗状況等について、民間事業者や関係当局の方々と情報共有や意見交換を行ってきています。二月十七日に開催した五回目の連絡協議会では、「パイロット実験」の進め方について説明するとともに、CBDCに関する海外主要国の取り組み等について、参加者の方々と意見交換を行いました。

編集後記

■対談では、日本サッカー協会会長の田嶋幸三氏と高田創審議委員にお話しいただきました。W杯での日本代表の活躍の裏には、長年にわたる地道な指導者育成の取り組みなどがあったことを熱く語っていただいています。グローバル化がもっとも進んだスポーツとも言えるサッカー界の取り組みは、わが国が将来目指すべき方向性を考える上でも示唆に富んでいるように感じました。

■インタビューでは、俳優とショートフィルム映画祭の主宰という2つの世界で活躍されている別所哲也氏を取材しました。中でも日本でショートフィルムの映画祭を立ち上げられた経緯は驚きの展開が多くお勧めです。別所氏の行動力の高さに感服するとともに、夢に共感し協力してくれた仲間の方々ととても大切にしておられたことが強く印象に残りました。

■地域の底力では、香川県三豊市を取り上げました。新たに地域に加わった方々の力をうまく融合しつつ、一人ひとりが誇りを持てる社会を目指しておられます。三豊市の方々の寛容さが潤滑油となって、良い循環が生まれているようです。(上)

[アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。

日本銀行のホームページからもご回答いただけます。

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。(https://www.boj.or.jp/about/koho_nichigin/index.htm)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (https://www.boj.or.jp) をご覧ください。

にちぎん 2023年夏号
編集・発行人 高口博英
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-1609



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
禁無断転載

▼「パイロット実験」の概要や

連絡協議会の説明資料等は、日本銀行ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。



「第一九回日銀グランプリ」キャンペーンからの提言」論文募集

応募締切：九月三十日(土)

▼「日銀グランプリ」は、学生

の皆さんを対象に開催する、金融・経済分野の小論文・プレゼンテーションコンテストです。

二〇〇五年度から毎年開催しており、今年度も応募論文を募集中です。

▼テーマは「わが国の金融・経済への提言」です。応募に当たっては、日本銀行ホームページ上の募集要項をお読

の募集要項をお読



みください。多くの学生の皆さんからの提言をお待ちしております。

「日銀春休み親子見学会」を開催

▼日本銀行本店では、三月二十九日、三十日に、小学校四年生〜中学校三年生の児童・生徒およびその保護者の方を対象とした「日銀春休み親子見学会

二〇二三」を開催しました。

▼見学会では、本館見学やお礼に関する体験学習などのプログラムにご参加いただきました。参加者からは「普段は気付かない偽造防止技術を学ぶことができて、興味深く、面白かった」などの感想が寄せられました。▼次の開催は夏休み期間中を予定しています。